

建築工事に関する用語

R4 24 建築工事に関する用語とその説明との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。
ECP: 石灰質原料及びけい酸質原料を主原料とし、オートクレーブ養生した軽量気泡コンクリートに鉄筋などの補強材を埋め込んだパネル
DPG構法: 一般に、ガラスにあげた点支持用孔に点支持金物を取り付け、支持構造と連結することにより、大きなガラス面を構成する構法
.エントレインドエア: AE剤又は空気連行作用がある混和剤を用いてコンクリート中に連行させた独立した微細な空気泡
逆打ち工法: 一般に、建築物の1階の床・梁などを先行施工し、これらを支保工として、下部の根切りを進め、順次地下階の躯体の施工と根切りを繰り返して、地下工事を進める工法

R3 24 建築工事に関する用語とその説明の組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。
歩掛り: 建築の各部分工事の原価計算における原単位的な概念で、部分工事量の1単位当たりの標準労働量、標準資材量等のこと
クリープ現象: 材料や部材に一定の荷重が持続することによって時間とともにひずみが増大する現象
スライディングフォーム工法: 構造物を解体しないで、機械又は人力によって水平移動させ、あらかじめ造られた基礎の上に移す工法
リフトアップ工法: 地上等の低所であらかじめ組み立てた大スパン構造の屋根架構等をジャッキ又は吊上げ装置を用いて所定の位置まで上昇させ設置する工法

R2 24 建築工事に関する用語とその説明との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。
CLT: 切削機械により切削した単板を、主としてその繊維方向を互いにほぼ平行にして積層接着した木質材料
粉体塗装: アルミニウム建材等に使用される塗装方法で、溶剤などの溶媒を含まず、VOC(揮発性有機化合物)の低減が図れる粉体塗料を用いて塗膜を形成させる塗装方法
ミルシート: 製鋼所で発行する鋼材の化学成分、機械的性質などが記されている試験成績書で、その材料がJIS等に適合していることを保証する規格品証明書
溶接ゲージ: 隅肉溶接ののど厚、脚長やビード幅、アンダーカット深度等を測定する器具

R5 24 建築工事に関する用語とその説明の組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。
1. ミルシート: 製鋼所で発行する、鋼材の化学成分、機械的性質などの試験結果が記されており、その材料がJIS等に適合していることを保証する規格品証明書
2. プリーディング: フレッシュコンクリート及びフレッシュモルタルにおいて、固体材料の沈降又は分離によって、練混ぜ水の一部が遊離して上昇する現象
3. チョーキング: 塗膜が熱、紫外線、風雨などによって劣化し、塗膜の表面から粉化していく現象
4. ボイリング: 掘削底面下方に被圧地下水を有する帯水層がある場合に、被圧地下水の圧力により掘削底面が持ち上がる現象

R2 24 建築工事に関する用語・試験機器とその説明との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。
腹起こし: 鋼材の溶接において、アークの始端部や終端部が欠陥となりやすいため、溶接ビードの始点と終点に取り付ける補助板
スランプフロー: スランプコンを引上げた後の試料の広がりや直徑を表したフレッシュコンクリートの流動性を示す指標
エンドタブ: 鋼材の溶接において、アークの始端部や終端部が欠陥となりやすいため、溶接ビードの始点と終点に取り付ける補助板
タッピングマシン: 子供の飛び跳ねや走り回り等の比較的重く柔らかい衝撃が加わったときの床衝撃音の遮断性能を調査するための床衝撃音発生器

R2 24 建築工事に関する用語とその説明との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。
セトリング(木工事): 丸太組構法において、丸太組用木材の重みや乾燥収縮により、水平に横んだ丸太組用木材が沈下をおこし、壁の高さが低くなる現象
リバウンド(土工事): 軟弱な粘性土を掘削した場合に、山留め背面の地盤の回り込みにより掘削面が膨れ上がる現象
ラミネーション(鉄骨工事): 鋼材の製造において、種々の酸化物、けい酸塩、硫化物の非金属 inclusion が圧延によって圧延方向に延ばされ層状に分布することによってできる内部の層状欠陥
強化ガラス(ガラス工事): フロート板ガラスを強化炉で約650°Cまで加熱した後、ガラスの両表面に空気を吹き付け急冷してガラス表面付近に強い圧縮応力層を形成し、耐風圧強度を約3倍に高めたガラス

H25 24 建築工事に関する用語とその説明との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。
スカラップ: 鋼構造部材の溶接接合部において、2方向からの溶接線が交差するのを避けるために、片方の部材に設ける部分的な円弧状の切欠き
合わせガラス: 2枚のガラスをスペーサーで一定の間隔に保ち、周囲を封着材で密閉し、内部に乾燥空気を満たしたガラス
脱気装置: アスファルト露出防水絶縁工法において、下地面の水分を外気に拡散させ、防水層のふくれを防止する装置
コンストラクションキーシステム: 建築物の施工中のみマスターキーシステムとなり、竣工後はシリンドーを取り替えずに、簡単な操作により工用シリンドー錠から本設シリンドー錠へ切り替わるキーシステム

H27 24 建築工事に関する用語とその説明との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。
クリティカルパス: ネットワークによる工程表において、最も時間がかかり、時間的余裕(フロート)がない作業経路(パス)
リバウンドハンマー: 基礎や外壁において被覆しているモルタルやタイルについて、それらの表面を打撃してコンクリート躯体からの離れ又は浮きを検査する機器
空積工法(張り石工事): 外壁乾式工法による張り石工事において、石材と躯体とを取付け金物で緊結し、そのまわりを取付け用モルタルで固定する工法
グレイジングガasket: ガラスのはめ込みに使用する副資材であり、サッシ溝と空隙に装着する主に水密性の確保を目的とした合成ゴム等の定形シーリング材

H29 24 建築工事におけるV形開先の突合せ継手において、図に示す記号部とその名称の組合せとして、正しいものは、次のうちどれか。
ベベル角度: 鉄骨(溶接)
開先角度: 鉄骨(溶接)
ルート面: 鉄骨(溶接)
ルート間隔: 鉄骨(溶接)
ギャップ: 鉄骨(溶接)
ルート深さ: 鉄骨(溶接)

H26 24 建築工事に関する用語とその説明との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。
スプライスプレート: 高力ボルト接合による鉄骨造の柱や梁の継手において、あらかじめ所定の位置にボルト貫通孔を加工した添え板
タイトフレーム: 折板屋根において、折板を受け梁に固定するための部品
ミルシート: 鉄筋1梱包ごとに付けられた、種別の記号、径又は呼び名、溶銅番号、製造業者名等の表示がある荷札
ランマー: エンジンで跳ね上がり、落下の際の自重と衝撃によって、地表面を締め固める機械

H28 24 建築工事の検査において、一般に使用する検査器具に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
1. クラックスケールは、コンクリート等に発生したひび割れの幅の測定に用いる器具である。
2. 溶接ゲージは、隅肉溶接ののど厚、脚長やビード幅の測定、アンダーカット深度等を測定する器具である。
3. すきまゲージは、本尺と副尺により1/2mmまでの精度で幅や深さの測定ができる20器具である。
4. 鋼球型テストハンマーは、タイル等の表面について、ハンマーの先端を左右に転がすように動かし又は軽打し、その音の差異で浮きがないか調べる器具である。

H28 24 建築工事の検査において、一般に使用する検査器具に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
1. クラックスケールは、コンクリート等に発生したひび割れの幅の測定に用いる器具である。
2. 溶接ゲージは、隅肉溶接ののど厚、脚長やビード幅の測定、アンダーカット深度等を測定する器具である。
3. すきまゲージは、本尺と副尺により1/2mmまでの精度で幅や深さの測定ができる20器具である。
4. 鋼球型テストハンマーは、タイル等の表面について、ハンマーの先端を左右に転がすように動かし又は軽打し、その音の差異で浮きがないか調べる器具である。

H26 24 建築工事に関する用語とその説明との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。
スプライスプレート: 高力ボルト接合による鉄骨造の柱や梁の継手において、あらかじめ所定の位置にボルト貫通孔を加工した添え板
タイトフレーム: 折板屋根において、折板を受け梁に固定するための部品
ミルシート: 鉄筋1梱包ごとに付けられた、種別の記号、径又は呼び名、溶銅番号、製造業者名等の表示がある荷札
ランマー: エンジンで跳ね上がり、落下の際の自重と衝撃によって、地表面を締め固める機械

H27 24 建築工事に関する用語とその説明との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。
クリティカルパス: ネットワークによる工程表において、最も時間がかかり、時間的余裕(フロート)がない作業経路(パス)
リバウンドハンマー: 基礎や外壁において被覆しているモルタルやタイルについて、それらの表面を打撃してコンクリート躯体からの離れ又は浮きを検査する機器
空積工法(張り石工事): 外壁乾式工法による張り石工事において、石材と躯体とを取付け金物で緊結し、そのまわりを取付け用モルタルで固定する工法
グレイジングガasket: ガラスのはめ込みに使用する副資材であり、サッシ溝と空隙に装着する主に水密性の確保を目的とした合成ゴム等の定形シーリング材

H28 24 建築工事の検査において、一般に使用する検査器具に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
1. クラックスケールは、コンクリート等に発生したひび割れの幅の測定に用いる器具である。
2. 溶接ゲージは、隅肉溶接ののど厚、脚長やビード幅の測定、アンダーカット深度等を測定する器具である。
3. すきまゲージは、本尺と副尺により1/2mmまでの精度で幅や深さの測定ができる20器具である。
4. 鋼球型テストハンマーは、タイル等の表面について、ハンマーの先端を左右に転がすように動かし又は軽打し、その音の差異で浮きがないか調べる器具である。